

◆ シカ食害等により衰退した植生の維持・回復

会津森林管理署南会津支署（福島県）、東京神奈川森林管理署（神奈川県）

【取組概要】

シカの食害等について状況調査、モニタリング調査等を行い、植生保護対策を検討し、生物多様性の保全を図る。

【取組状況】

南会津支署の取組 尾瀬周辺地域における生態系の維持回復を目標

＜被害調査＞

- 尾瀬の森林域を中心に、植生の被食状況を調査を実施
 - ・ 尾瀬の林内においては、剥皮被害はあまり見受けられなかった。
 - ・ 帝釈山付近に、剥皮被害を受けたオオシラビソが散見されたが、古い被害であり原因は不明であった。
 - ・ 尾瀬周辺地域においては、人工林内に比較的新しい剥皮が見られた。
 - ・ 被害木は、林内に点状に見られ、幹の半周まで剥皮されたものが多く見られた。また、原因としては、シカによるものとクマによるものの両方が見られた。
 - ・ 一部では、ササの被食が確認された。
- 今回の調査で、把握できた被害関係の位置情報や写真は、GISソフトで整理し、データの蓄積を図る。

東京神奈川署の取組 丹沢地域における生態系の維持回復を目標

＜被害調査＞

- 状況把握のため、県が設置している植生防護柵の規模、設置箇所等について実態を調査した。

＜植生保護対策の経過＞

- H22年 7月： 神奈川県と合同で、丹沢山を中心とした現地調査を実施し、H22年度の植生保護柵設置箇所を検討した。
- H22年 9月： 保護柵設置作業を発注
- H22年11月： 7箇所、延長800mの植生防護柵を設置した。

【今後の予定】

南会津支署では、引き続きモニタリングを実施しデータの蓄積を図ると共に、整理したデータに関係行政機関に提供し、情報の共有化を行っていく。

東京神奈川署では、モニタリングを継続すると共に、局と連携し、植生調査を実施する予定。同時に、H23年度の植生保護柵設置箇所の検討も行っていく。



スギの被食跡



オオシラビソの古い被食跡



植生保護柵